

看護学科における国際交流活動の現状と課題 －第3報 米国ウォッシュバン大学看護学部との国際交流－

上野 珠未^{1),2)} 有田 久美^{1),2)} 石橋 曜子^{1),2)}
大城 知子^{1),2)} 池田 智^{1),2)} 黒木 求^{1),2)}
宮林 郁子^{1),2)}

¹⁾ 福岡大学医学部看護学科 平成 27 年度国際交流委員

²⁾ 福岡大学医学部看護学科

要旨：福岡大学医学部看護学科では、国際交流活動のひとつとして、2012年より米国ウォッシュバン大学の看護学部と国際交流プログラムを開始した。これまでの4年間に計38名の学生と8名の教員を派遣し、米国の先進の看護を学んできた。2013年からは相互交流推進のため、ウォッシュバン大学と調整を開始し、2014年にはウォッシュバン大学看護学部の学部長、国際センター長が来日した。視察後に研修内容について協議した結果、2015年度から相互交流の開始が決定した。2016年1月にはウォッシュバン大学看護学部から3名の看護学部教員と6名の学生を迎え、第1回目の国際交流プログラムを実施した。ウォッシュバン大学の授業科目「Nursing in Japan」の目的を踏まえ、病院見学や施設見学、ホームステイなどのプログラムを通して、研修生は日本における医療や看護だけでなく、日本の文化や歴史について学びを深めることができた。また、看護学科においても、教員・学生との相互交流を通し、人的交流が深まった。この研修がウォッシュバン大学の期待するプログラムとなるよう、双方で調整を重ね、今後長きにわたり交流が続いていくことが望まれる。

キーワード：国際交流，米国，看護学生，看護教員，看護学科